

磯地区の紹介

磯地区 西方より望む

沿革



網野町中心より西方に府道を4kほど車で走った海岸に位置し道中はかなり厳しい景観が眼下に迫ります。このような山が海岸に迫るこの場所に40戸近くの世帯の区民が暮らしています。さて、いろいろ嫁不足だとか騒がれている昨今ですがことこの「磯地区」はそのような危機感はなく幾年か過ごしてきました。甲斐性のある若者が多い・・・のかな?? まあいずれにしても喜ばしい集落です。この地区においてはご存知かと思いますが昭和56年頃より大がかりな府道拡幅に伴う立ち退きのため過去の集落の様相を大きく塗り替えてしまいました。それを機に当地区から転出された方も数戸あります。

暮らしと生計

そんなわけで、この地区には何か生計を立てるのにおいしいものがあるのではと思います・・・区役員さま宅を訪ねていろいろお話を聞きました。やはり、想像通りこの眼下に迫る日本海が区民の財布を肥やしてくれたそうです。加えて補足的な農業(梨などの果樹) そのまた副業としての織物業、この織物業は育児を要する主婦層にはふさわしい仕事だったと云います。この頃、区内の戸数54戸と云います。

学校

網野町中心よりかなり離れており登校路も危険を擁したためか地区には町立磯小学校が(本校として)府道拡幅の頃までありました。その後網野地区の北小学校に統合され、跡地には区の公会堂が建造されました。

磯地区の熱気と活気

訪れた宅のお年寄りは今でも当時漁業旺盛の時代を目を輝かせながら語ってくれます。漁業といっても小舟で海に繰り出し、魚探を活用して刺し網で漁獲するレベルですが最盛期はハマチが6、600匹競にて1匹3000円こんな漁が3日間続いて経費を抜いても550万の収益があったと云います。これは止められない! それにましてワカメ刈りによるワカメの出荷、これも大変な収益があったと云います。「町内の浅茂川祭り(水無月祭)も磯の漁師が横向いたら料理が出なかったと云われた」という話もまんざらウソはでない・・・。

二つの神社

さて、そんな活気熱気一杯の集落にも静かなる伝説の残る「静神社」という社が区内西方にあります。静御前にまつわる伝説は全国いたるところで耳にしますがこの丹後の地でも伝わる話になっているようです。秋祭りが行われる氏神としての神社は区内の東方外れに賀茂神社があります。

岡本区長のコメント

市民のみなさん、天気の良い日に、ぜひ七竜峠付近の磯海岸を見に来てください。きっとその神秘的な海岸美(ジオパーク)に魅了されるはずです。



牛ヶ山登山道にある七竜の伝説の祠

七竜峠～牛ヶ尾山中腹より 小天橋を望む



静神社

悲劇の英雄、源義経の愛妾であった静御前を祀っているのがこの神社です。静は禪師の娘として生まれ、京に出て、白拍子になり義経に見染められるのですが、義経が追放された後は故郷の磯に帰リ晩年を過ごしたということです。

義経が磯の惣太という船持ちの豪族にあってた手紙が残っていたという江戸時代の記録もあります。しかし、この手紙や多くの遺品は天明二年の大火で神社とともに消失してしまいい残念ながら残っていません。現在の社も、元のところから西へ二百ほど離れた位置に建てられ、静御前の木像を祀っています。

